

テーマは「データを活用している農業経営体」

分析結果の利用にあたって（留意事項）

本分析で用いた農業経営におけるデータ活用状況に関する調査結果データは、2020 年農林業センサスにおいて新規の調査項目として初めて調査が実施されたものです。

なお、調査方法は、調査対象である農業経営体自身が、「データを取得して活用」、「データを取得・記録して活用」、「データを取得・分析して活用」、「データを活用した農業を行っていない」の4つの選択肢の中からいずれか1つを回答する方式により実施されたものであり、現地確認等を行ったものではありません。

また、調査結果の集計は、調査に回答した農業経営体の所在地（県、市町村、農業集落）ごとに集計した属人調査結果となっています。

データを活用して経営している農業経営体数

東北において、効率的かつ効果的な農業経営を行うためにデータ（財務、市況、生産履歴、生育状況、気象状況、栽培管理などの情報）を活用して農業経営を行っている農業経営体数は30,798 経営体で、農業経営体数全体に占める割合は16%となっており、これは全国的な状況と大きな差はありません。

また、データの活用方法をみると、データを取得して活用している農業経営体の割合が最も多く10%、次いでデータを取得・記録して活用している経営体割合が5%、データを取得・分析して活用している経営体割合が1%となっています。

なお、県別にデータを活用した農業経営体数の割合をみると、青森県及び山形県では約2割となっていますが、宮城県及び福島県では約1割にとどまっており、県ごとの活用状況には差がみられます（表1）。

表1 データを活用した農業経営を行っている農業経営体数

（経営体）

区 分	計	データを活用した農業を行っている				データを 活用した 農業を行っ ていない
		小計	データを 取得して 活用	データを 取得・記録 して活用	データを 取得・分析 して活用	
全 国	1,075,705 (100%)	182,594 (17%)	108,886 (10%)	61,751 (6%)	11,957 (1%)	893,111 (83%)
東 北	194,193 (100%)	30,798 (16%)	20,046 (10%)	9,025 (5%)	1,727 (1%)	163,395 (84%)
青森県	29,022 (100%)	5,542 (19%)	4,038 (14%)	1,230 (4%)	274 (1%)	23,480 (81%)
岩手県	35,380 (100%)	5,812 (16%)	3,769 (11%)	1,715 (5%)	328 (1%)	29,568 (84%)
宮城県	30,005 (100%)	3,954 (13%)	2,420 (8%)	1,296 (4%)	238 (1%)	26,051 (87%)
秋田県	28,947 (100%)	4,783 (17%)	3,110 (11%)	1,434 (5%)	239 (1%)	24,164 (83%)
山形県	28,241 (100%)	5,769 (20%)	3,672 (13%)	1,753 (6%)	344 (1%)	22,472 (80%)
福島県	42,598 (100%)	4,938 (12%)	3,037 (7%)	1,597 (4%)	304 (1%)	37,660 (88%)

資料 2020 年農林業センサス結果

注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ）。

【調査の定義】

「データを取得して活用」とは、デジタル機器、携帯電話、新聞などを用いて取得した気象等の経営外部データを農業経営に活用することです。取得したデータには、新聞、情報誌などに記載されている紙媒体の情報も含まれます。

「データを取得・記録して活用」とは、「データを取得して活用」で取得した経営外部データに加え、財務、生産履歴等の経営内部データをデジタル機器、携帯電話などを用いて、取得したものを電子媒体に記録して農業経営を行うために活用することです。紙媒体に記録（記帳）するだけの場合は該当しません。

「データを取得・分析して活用」とは、データを把握し、センサー、ドローン、カメラなどを用いて、気温、日照量、土壌水分・養分量、CO2 濃度などのほ場環境情報や、作物の大きさ、開花日、病気の発生などの生育状況といった経営内部データを取得し、専用のアプリ、パソコンのソフトなどで分析して農業経営を行うために活用することをいいます。



Maff まふ
Navi ナビ
東北

Vol.23 [令和 6 年 1 月]

「まふナビ東北」では、各種政府統計調査結果や行政データ等を活用して分析した東北農業の実態に関する分析データをお届けします。

[発行]
農林水産省 東北農政局 統計部



データを活用して経営している農業経営体数（市町村別）

データを活用して農業経営を行っている農業経営体数を市町村別にみると、第1位は奥州市の1,252経営体、第2位は弘前市の1,090経営体、3位は横手市の973経営体、第4位は一関市の787経営体、第5位は鶴岡市の779経営体となっています（図1）。

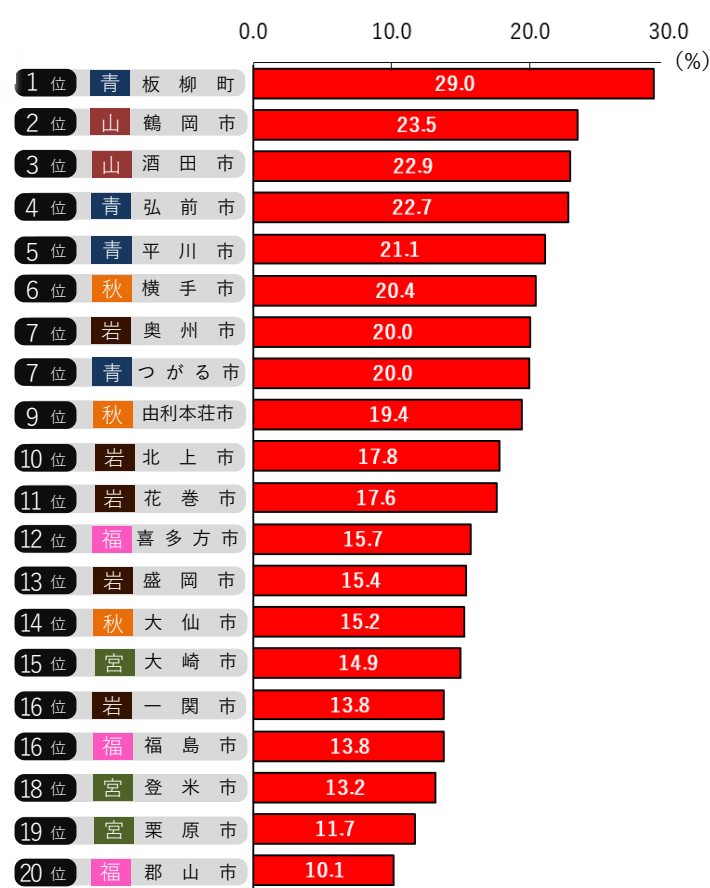
一方、データを活用して農業経営を行っている経営体数の上位20市町村について、データを活用して農業経営を行っている農業経営体数の割合をみると、第1位は板柳町の29.0%、第2位は鶴岡市の23.5%、第3位は酒田市の22.9%、第4位は弘前市の22.7%、第5位は平川市の21.1%となっています（図2）。

図1 データを活用して農業経営を行っている農業経営体数



資料 2020年農林業センサス結果

図2 データを活用して農業経営を行っている農業経営体数割合



資料 2020年農林業センサス結果

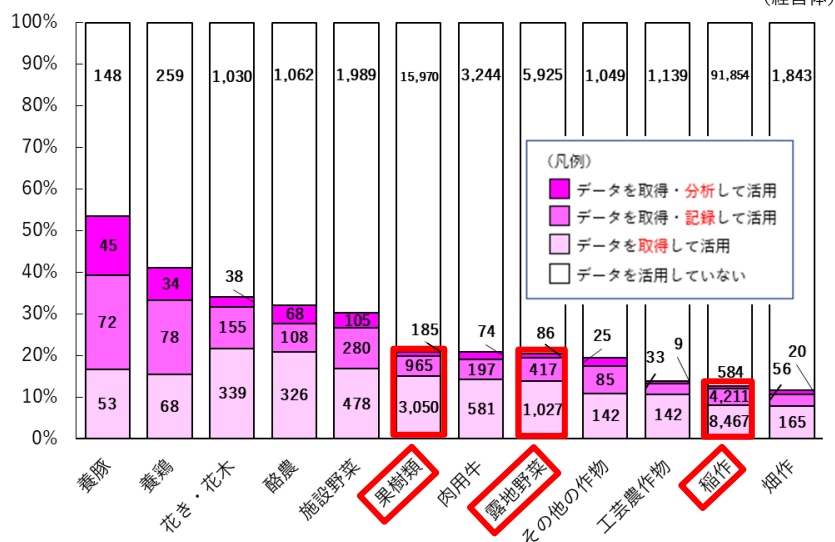


部門別のデータ活用状況

データを活用して農業経営を行っている農業経営体数を部門別にみると、稲作部門が13,262経営体（全体に占める割合は43.1%）と最も多く、次いで果樹類部門が4,200経営体（同13.6%）、露地野菜部門が1,530経営体（同5%）となっています（図3赤枠）。

一方、データを活用して農業経営を行っている農業経営体数割合を部門別にみると、養豚部門が53.5%と最も高く、次いで、養鶏部門が41.0%、花き・花木部門が34.1%、酪農部門が32.1%、施設野菜部門が30.3%の順となっています（図3）。

図3 データを活用して農業経営を行っている農業経営体数及び経営体数割合（部門別・東北）



資料 2020年農林業センサス結果

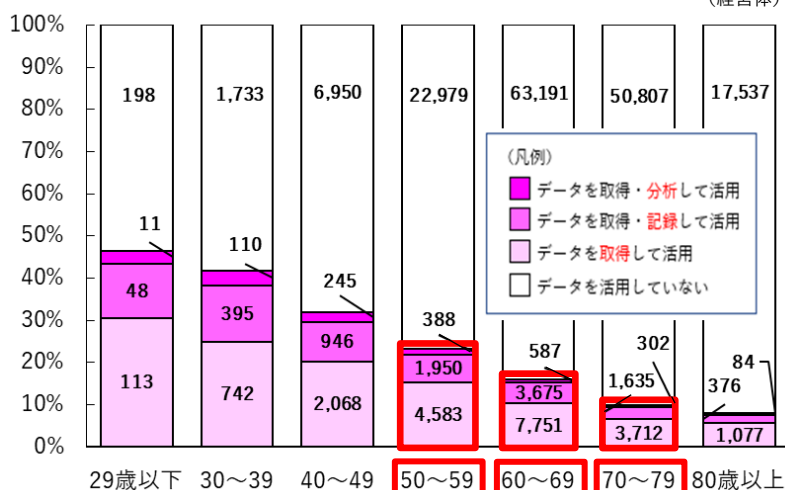


データを活用して経営している経営主の年齢

データを活用して農業経営を行っている農業経営体数を経営主の年齢別にみると、60歳～69歳が12,013経営体（全体に占める割合は39%）と最も多く、次いで、50歳～59歳が6,921経営体（同22%）、70歳～79歳は5,649経営体（同18%）となっています（図4赤枠）。

一方、経営主の年齢別にデータを活用して農業経営を行っている農業経営体数割合をみると、29歳以下が46.5%で最も高く、次いで30歳～39歳が41.8%、40歳～49歳が31.9%と経営主の年齢が若いほどデータを活用して農業経営を行っている割合が高くなっています（図4）。

図4 データを活用して農業経営を行っている農業経営体の経営主の年齢（東北）



資料 2020年農林業センサス結果



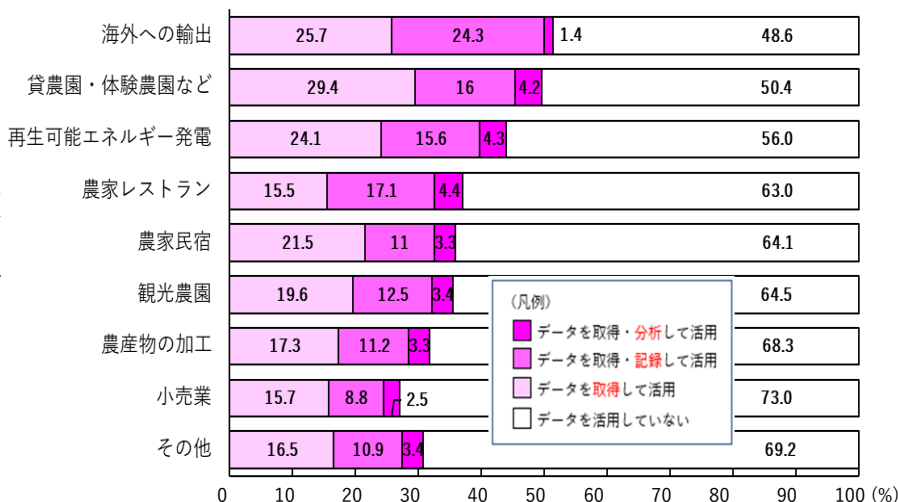
農業生産関連事業に取り組んでいる農業経営体のデータ活用状況

農業生産関連事業に取り組んでいる農業経営体数は12,092経営体あり、このうちデータを活用して農業経営を行っている農業経営体は3,417経営体で28%を占めており、農業経営体全体に占めるデータ活用している経営体数割合16%を大きく上回っています。

また、データを活用して農業経営を行っている農業経営体数割合を生産関連事業の種類別にみると、「海外への輸出」が51.4%と最も高く、続いて「貸農園・体験農園など」が49.6%、「再生可能エネルギー発電」が44.0%となっています。

なお、データを取得・分析して活用している経営体割合は、「農家レストラン」が最も多くなっています（図5）。

図5 データを活用して農業経営を行っている農業経営体数割合（農業生産関連事業に取り組んだ農業経営体・東北）



資料 2020年農林業センサス組替集計結果

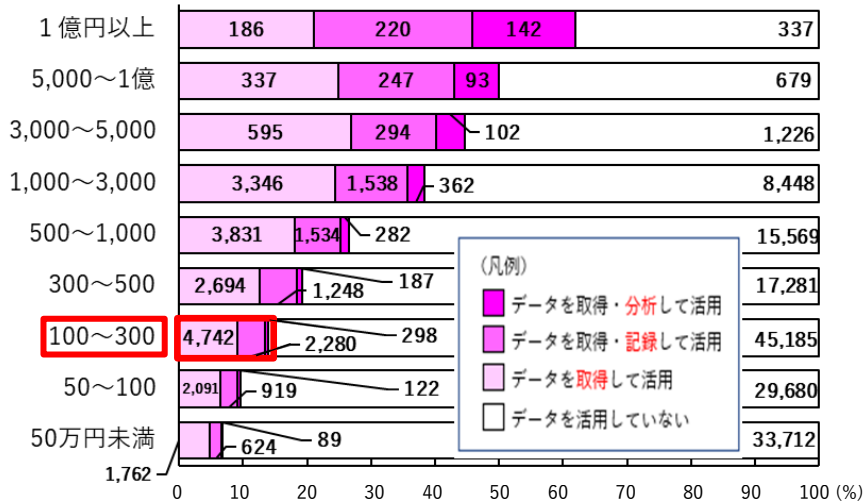


農産物販売金額規模別のデータ活用状況

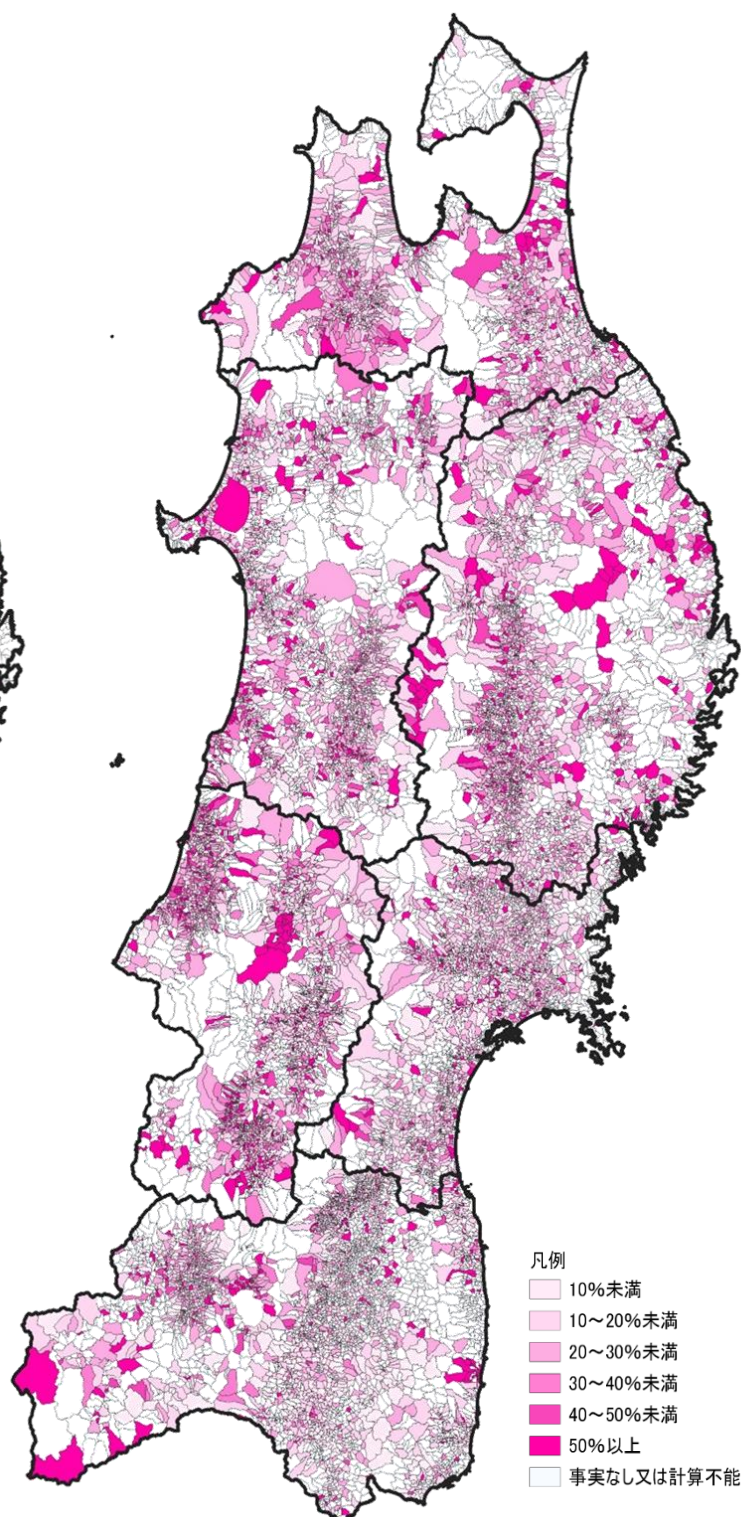
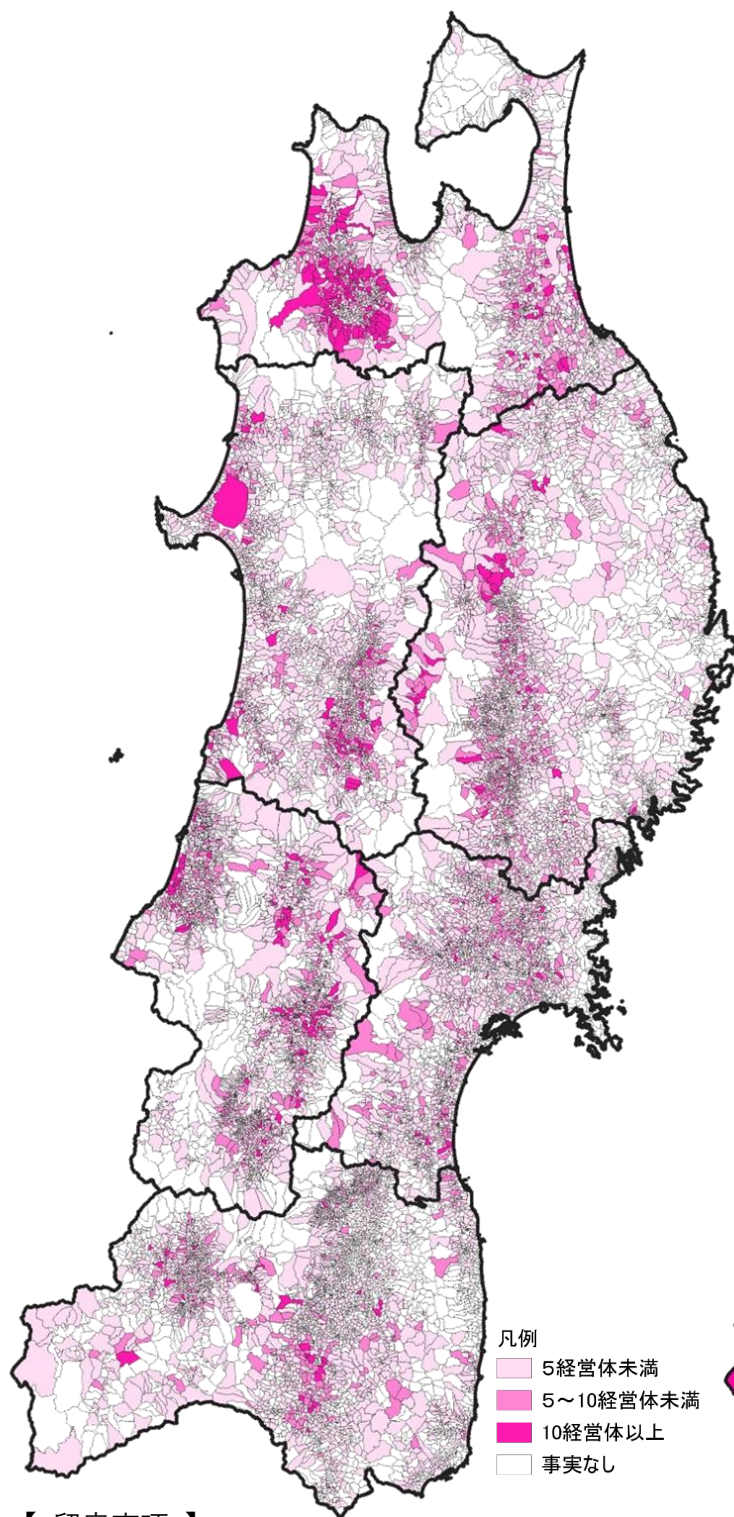
農産物の販売があった農業経営体について、データを活用して農業経営を行っている農業経営体数を農産物販売金額規模別にみると、農産物販売金額が100～300万円が7,320経営体（全体に占める割合23.8%）で最も多くなっています（図6赤枠）。

一方、データを活用して農業経営している農業経営体数割合は、販売金額規模が大きくなるに従い高くなっており、5千万円以上の経営体では49.9%、1億円以上の経営体では61.9%を占めています（図6）。

図6 データを活用して農業経営を行っている農業経営体数及び農業経営体数割合（農産物販売金額規模別・東北）（経営体）



資料 2020年農林業センサス結果



【 留意事項 】

- 1 農業集落別色分け地図は、「地域の農業を見て・知って・活かすDB」を利用して作成した。
https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/index.html
- 2 データは、2020年農林業センサス調査結果の農業集落別集計結果である。
- 3 データを活用している経営体の割合は、当該農業集落内の農業経営体数に占めるデータを活用している経営体数の割合である。



-お問合せ- 農林水産省東北農政局統計部統計企画課 電話：022-745-9378

「まふナビ東北（東北地域にクローズアップした分析）」はこちらからご覧いただけます。
東北農政局ホームページ <https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/bunseki/maffnabi.html>

